

## 第1 基本的事項

### 1 群馬県海岸漂着物対策推進地域計画策定の背景

近年、我が国の海岸に、我が国の国内や周辺の国又は地域から大量の漂着物が押し寄せ、生態系を含む海岸の環境の悪化、美しい浜辺の喪失、海岸機能の低下、漁業への影響等の被害が生じています。こうした状況を踏まえ、平成21年7月には、海岸漂着物対策の推進を図ることを目的として、「美しく豊かな自然を保護するための海岸における良好な景観及び環境並びに海洋環境の保全に係る海岸漂着物等の処理等の推進に関する法律」（以下、「海岸漂着物処理推進法」という。）が成立し、公布・施行されました。

また、世界全体では、毎年約800万トンのプラスチックごみが海洋に流出しているとの報告があります。このままでは2050年には海洋中のプラスチックごみの重量が魚の重量を越えるとも試算されています<sup>\*1</sup>。

このように、海岸漂着物が海洋環境に深刻な影響を及ぼしていることから、全国的にも国際的にもその発生抑制対策が求められています。

さらに近年では、海洋に流出する廃プラスチック類や微細なプラスチック類であるマイクロプラスチックが生態系に与え得る影響等について国際的に関心が高まり、世界全体で取り組まなければならない地球規模の課題となっています。

これらの海岸漂着物等の問題に対して、海岸を有する地域だけでなく、河川流域圏の内陸地域と沿岸地域が一体となり、循環型社会形成推進基本法等の施策と相まって海岸漂着物等の発生を効果的に抑制するなど、広範な関係主体による取組が必要です。

本県では、「群馬県環境基本条例」において「良好な環境の保全と創造」を実現することを目標としています。また、2019(令和元)年12月には、2050年に向けて、災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため『ぐんま5つのゼロ』を宣言しており、その1つとしてプラスチックごみ「ゼロ」を掲げています。

海のない内陸県である本県においても、環境中に排出されたごみが、河川を經由して最終的に海に流出し海岸漂着物になるため、当事者であるという意識を持ち、発生抑制対策を進めていく必要があります。

こうしたことから、本県では、「海岸漂着物処理推進法」に基づく地域計画を策定します。

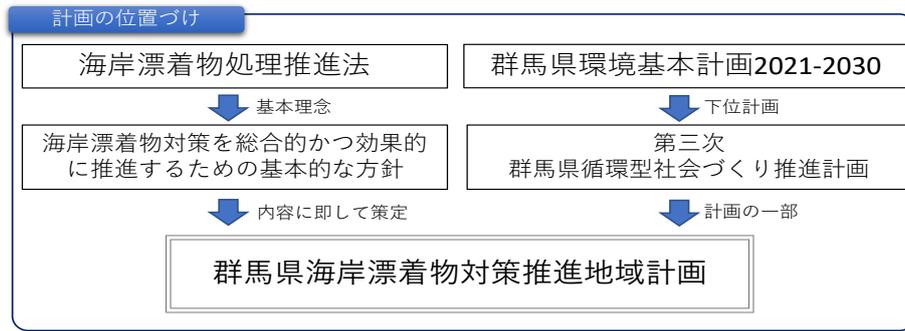
### 2 地域計画の位置づけ

本計画は、「海岸漂着物処理推進法」の「海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」の内容に即して策定し、また、「群馬県環境基本計画2021-2030」の下位計画にあたる「第三次群馬県循環型社会づくり推進計画」の計画の一部に位置づけるものとします。

---

\*1: WEF, 2016., The New Plastic Economy Rethinking the future of plastics

表 1-1 群馬県海岸漂着物対策推進地域計画の位置づけ



### 3 計画期間

本計画期間は、令和4年度から令和12年度までの9年間とし、概ね5年程度を目途に必要な見直しを行います。

## 第2 群馬県の現状と課題

### 1 自然的特性

#### (1) 地勢・気象

##### ア 概況

本県は、本州のほぼ中央に位置し、上毛かるたに「鶴舞う形の群馬県」と詠まれているように、南東部を嘴にし、両翼を広げて飛翔する形状をしています。県土の約80%を山地丘陵地が占めており、利根川本支川に沿って河岸段丘や沖積地が形成されています。山地のうち非火山性山地は、南西部の関東山地、北西部の三国山地、東部の足尾山地から成り立っています。火山性山地は、赤城山、榛名山をはじめ、武尊山、子持山、小野子山、草津白根山、浅間山等多数の火山があり、県中央部に北東から西南にかけて帯状に並んでいます。これらの山地の周りには丘陵地が分布しています。

地質については、火山噴出物が多く分布し、溶岩流、火砕流泥流等の堆積物から成り立っていることから、比較的脆弱な傾向にあります。

表 2-1 群馬県的主要な山(資料：国土地理院)

山名	標高(m)	山名	標高(m)
日光白根山	2,578	武尊山	2,158
浅間山	2,568	皇海山	2,144
四阿山	2,354	赤城山	1,828
横手山	2,307	子持山	1,296
至仏山	2,228	小野子山	1,208
本白根山	2,171	妙義山	1,103
草津白根山	2,160	榛名山	1,084

##### イ 気温・降水量

本県は、新潟県、福島県、栃木県、埼玉県、長野県の5県に囲まれている海を持たない内陸県であり、気候は太平洋沿岸気候です。県内には山と谷と平野部が混在しており、北部では標高2,000mを超える山々であるのに対して、関東平野に連なる平野部では標高10m程度と高低の変化が大きく、山岳気候と平地気候が混在しています。

これらの標高の高低差により、厳冬期には、北部で氷点下10℃以下まで下降する一方、盛夏期には、南東部の平野部で40℃近くまで気温が上昇し、地域によって気候が大きく異なります。群馬県の平均気温は、南東部の平野部では14℃以上あるのに対し、北部の山地では11℃以下となっており、地形による影響が大きく、その分布は複雑です。

群馬県の降水量については、南部の平野部では年間1,200mm程ですが、冬季の降雪が多い山地では1,700mm以上となっております。また、南海上から暖湿流の影響を受けやすい赤城や榛名、冬季の北部山岳地域で降水量は多いですが、気象庁の観測地点である、沼田や片品の降水量は南部の平野部と同程度と山地の中では比較的少なくなっており、降水量も複雑に分布しています。

## ウ 風・台風

上毛かるたに「雷と空風 義理人情」と詠まれているように、冬から春には肌を刺すような冷たく乾燥した風が吹きます。この北西風は「上州のからっ風」として知られており、「赤城おろし」ともよばれています。気象庁の観測地点である、前橋における風向は、北北西や北西の風の頻度が高く、全体の約 40%を占めています。季節的には、10 月から 4 月ごろはとりわけ北北西や北西の風が多く、5 月から 9 月ごろにかけては東南東の風の頻度が多くなります。

同様に、前橋における過去の最大瞬間風速は、昭和 41 年 9 月 25 日の台風第 24・26 号による 40.2m/s となっており、季節風としては昭和 46 年 1 月 18 日の 30.0m/s となっています。

近年では、令和元年の台風第 19 号により、日最大風速は伊勢崎で 14.9m/s、日最大瞬間風速は草津で 28.9m/s を観測しました。なお、桐生においては 10 月 12 日の日最大瞬間風速は 22.2m/s であり、統計開始以来の極値を更新しました。降水量については、西野牧(下仁田町)では 11 日 00 時の降り始めから 14 日 00 時までの総降水量が 496.5mm となる等、県内の雨量観測 17 地点のうち 10 地点で日降水量が統計開始以来の極値を更新しました。

## (2) 河川の概況

### ア 利根川

利根川は流域面積が 16,840km<sup>2</sup> で幹川流路延長が 322km の日本最大の流域面積と全国第 2 位の幹川流路延長を誇る河川です。その流域は群馬県、埼玉県、栃木県、茨城県、千葉県、東京都の 1 都 5 県に広がっています。利根川は、群馬県北部の大水上山が源流で、みなかみ町で赤谷川、沼田市と昭和村の境で片品川が合流し、赤城山と榛名山の間を流れ、渋川市で吾妻川、伊勢崎市と玉村町の境で烏川が合流します。その後は、埼玉県へと流れ、渡良瀬川と合流した後、関東平野を貫流して茨城県神栖市と千葉県銚子市の境で太平洋に注いでいます。流域に首都圏の大都市や広大な関東平野を抱えているのが利根川の特徴であり、都市用水や農業用水を供給する役割を担っている河川です。

### イ 一級河川

群馬県は、利根川を軸として、各河川が広がっています。一級河川のうち、河川に分類されるものが 428 本の総延長約 2,937km、湖沼に分類されるものが 6 本の 26km となっており、総計では 434 本の約 2,963km となっています。知事が管理している河川数及び総延長は、434 本(利根川水系、信濃川水系、阿賀野川水系)の約 2,712km で、国土交通大臣が管理しているのは 26 本(利根川水系)の約 251km です。

県北西部の山岳地帯では、勾配 1/50 以上の急流河川が多く、多数のダムが設置されています。また、東部の低地地帯では、堤防が高いことからポンプで川に流す河川や、勾配 1/1000 以下の緩流河川等、県内の河川は様々な特徴を有しています。

### (3) 流域の概況

流域の概況を整理するにあたり、群馬県の作成している「群馬県流域別環境基準維持達成計画(2021-2025)」に基づき、区域分けを行い、それぞれの流域ごとの特徴を整理しました。以下に、流域ごとの区分を示します。

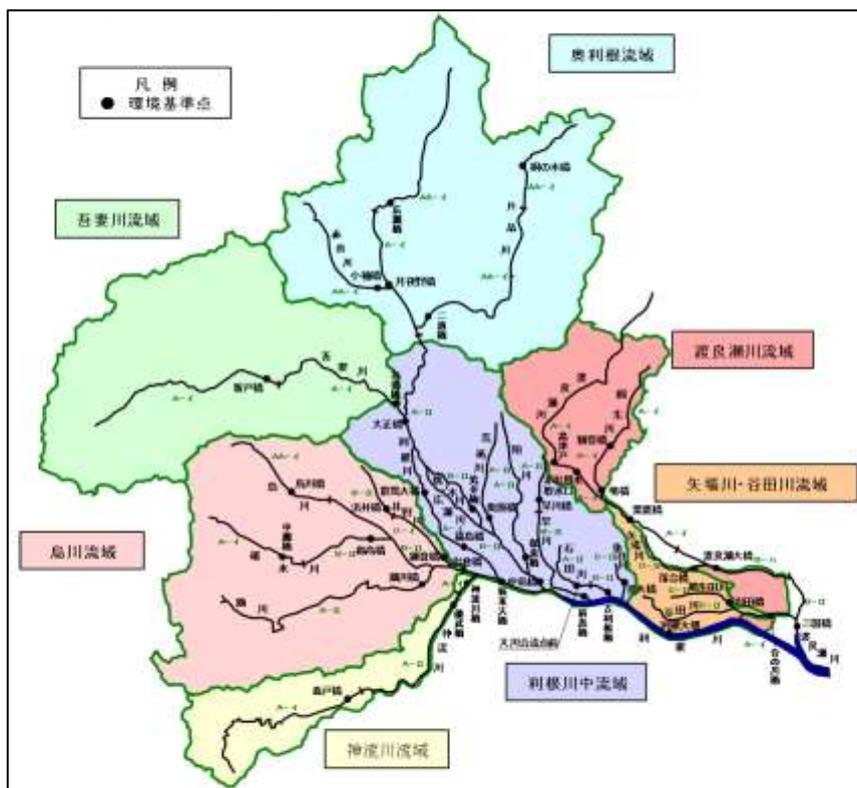


図 2-1 流域ブロック分け(群馬県流域別環境基準維持達成計画(2021-2025)より引用)

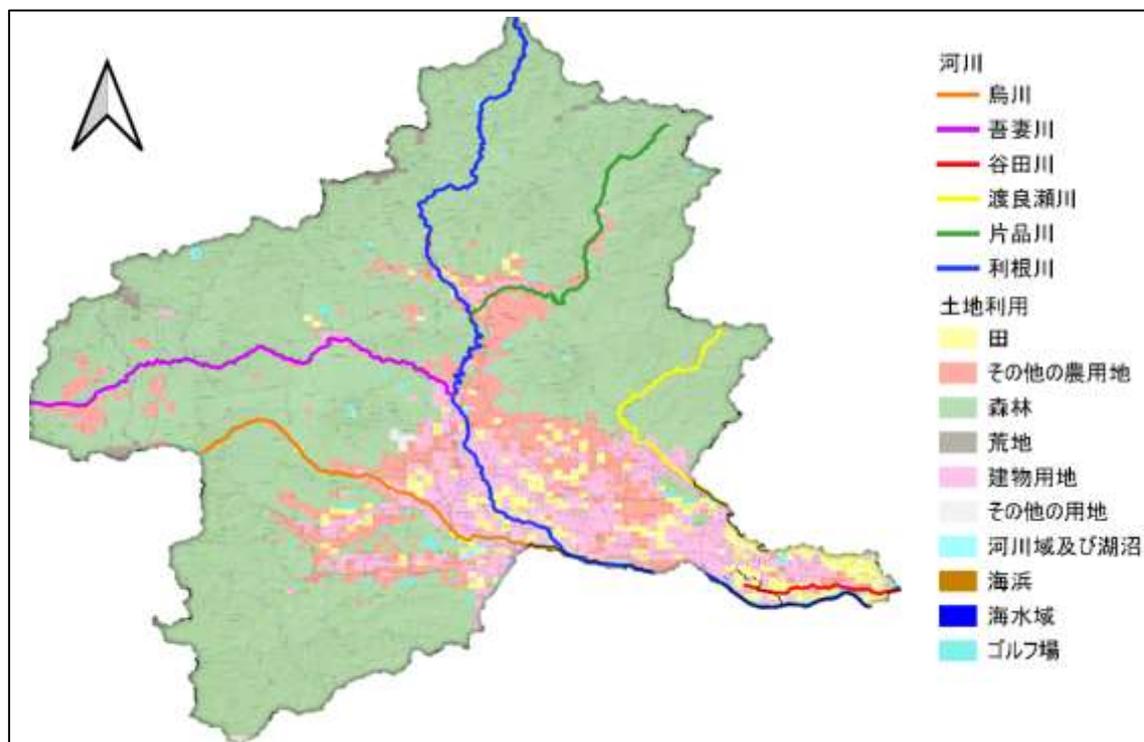


図 2-2 土地利用図(国土地理院地図、国土数値情報を基に作成)

## ア 奥利根流域

### (ア) 概況

奥利根流域は、利根川の最上流に位置する流域であり、群馬県北部の利根郡、沼田市を含んでいます。本流域において、利根川本川に赤谷川や片品川等が合流してします。

赤谷川は、利根川本川の月夜野橋の下流、みなかみ町の月夜野で利根川と合流します。流路延長は約 24.7km の一級河川です。猿ヶ京温泉付近には、相俣ダムが設置されており、赤谷湖がダム湖として形成されています。月夜野で利根川に合流する手前には黒岩溪谷が 1km 程続いています。

片品川は、黒岩山を源流としており、利根郡東部の山岳地帯の水を集め、沼田市と昭和村の境において利根川に合流します。流路延長は約 53.8 km の一級河川です。沼田市には菌原ダムが設置されており、治水、利水、発電に運用されています。

### (イ) 地形等

本流域の上流には森林が広がっています。水が豊富であり、勾配は急で落差がある地域であることから、治水、利水ダムに数多く利用されています。利根川と片品川の合流付近には、赤城山、子持山、武尊山等の火山や第三紀火山岩類の山地に囲まれた沼田盆地が形成されています。片品川の扇状地堆積部である沼田礫層が作りだした平坦面が広がり、利根川、片品川、薄根川の浸食によって河岸段丘が形成されています。

本流域の下流は赤城山や榛名山から広がる傾斜地と、利根川に至る平坦地域により形成されており、起伏が比較的大きい地域となっています。

## イ 吾妻川流域

### (ア) 概況

吾妻川流域は群馬県の北西部を占める流域であり、吾妻郡を含んでいます。吾妻川は渋川市の大正橋上流で利根川に合流し、本川流路延長は約 76.2km、流域面積は 1,352km<sup>2</sup> の一級河川です。上流域は高原地域であり、草津温泉、万座温泉等の温泉地帯でもあり、標高差が大きいことから複数の発電用ダム・堰堤が運用されています。中流域には八ツ場ダムが整備・運用されており、平坦地には東吾妻町及び中之条町の中心市街が形成されています。下流域は榛名山等から広がる傾斜地と平坦地域で構成され、平坦部には渋川市の市街地が広がっています。

### (イ) 地形等

吾妻川流域は、浅間・烏帽子火山群や四阿山等、標高2,000m級の山地に囲まれており、急峻な山地がほとんどを占めています。浅間山、草津白根山、子持山及び榛名山等の山麓部には火山からの噴出物によりできた台地・平坦地が存在しており、田畑や居住域となっています。十二ヶ岳、薬師岳等の第三期火山岩類の山地に囲まれた吾妻川沿線には中之条盆地が形成されています。

## ウ 烏川流域

### (ア) 概況

烏川は、群馬県の高崎市と長野県の軽井沢町の県境に位置する鼻曲山を源流とした本川流路延長約 62km、流域面積約 1,800km<sup>2</sup>の川です。烏川流域の市町村は、高崎市を中心に、前橋市、藤岡市、富岡市、安中市、北群馬郡、甘楽郡、佐波郡にまたがっています。烏川には榛名川、滑川、榛名白川が順に合流し、碓氷川、鐺川、井野川や神流川が合流した後に利根川に合流します。烏川上流域は森林で、中流域に森林、農村地、果樹園等が広がっています。下流域は市街地が形成されており、水田、畑地、宅地、商工業用地等のために利用されています。

碓氷川は、烏川の支川で、流域面積約 291km<sup>2</sup>、本線流路延長約 36.8km の一級河川です。群馬県安中市と長野県の軽井沢町の境界に位置する一ノ字山を源流とし、霧積川、九十九川、柳瀬川等が合流した後、高崎市内で烏川に合流しています。

鐺川は群馬県と長野県の県境に位置する物見山付近に源流があり、南牧川が合流後、富岡市街地を流下し、雄川、高田川、鮎川が合流した後、烏川に流れ込んでいます。流域面積約 632km<sup>2</sup>、流路延長 58.8km の一級河川です。

### (イ) 地形等

烏川圏域の北部は榛名山の火山地形、西部は浅間隠山、霧積山等の古期火山帯、東部は関東平野に前橋台地が形成されています。また、上流区間は新第三紀の山中の溪流で深いV字谷を形成しており、特に室田付近で両岸が曲流している特徴を持ちます。中里見より下流の区間は段丘地形が成り立っています。本地域は、主に都市機能を有した南東部と山間地の北西部にわかれています。

## エ 利根川中流域

### (ア) 概況

利根川中流域は、前橋市を中心に高崎市、桐生市、伊勢崎市、太田市、渋川市、みどり市、北群馬郡、佐波郡にまたがる群馬県の中心部に位置する流域であり、人口・産業ともに最大の地域です。また、国道 17 号上武道路や国道 354 号東毛広域幹線道路玉村伊勢崎バイパス、高崎玉村バイパス等の主要道路もあり、都市基盤、産業基盤としての発展も見込まれます。利根川中流域を流れる河川は利根川を中心とし支川の藤川や広瀬川、早川、石田川等が存在しています。前橋市の北側は山地地域で火山の赤城山等があり、伊勢崎市にかけては平野部が広がっています。

### (イ) 地形等

利根川の中流圏域は、上流域が山地、中・下流域が平野になっています。上流域の山地部は、広大な裾野の広がりを持つ二重式火山の赤城山の南面裾野域となっており、粕川をはじめ放射状に山腹を流下する河川が裾野を刻んでなだらかな山麓扇状地を形成しています。また、中・下流域の平野部は圏域の大半を占めており、利根川低地に区分されます。利根川低地は、扇状地性低地の部分が多く、堆積物は礫が多く、かつては中州であった微高地形が点在しています。

## オ 渡良瀬川流域

### (ア) 概況

渡良瀬川流域は桐生市、みどり市を中心に館林市、板倉町から構成されています。渡良瀬川は沼田市と栃木県日光市の県境に位置する皇海山が源流です。流路延長 107km、流域面積 2,621km<sup>2</sup> の利根川水系最大の支川です。桐生川は渡良瀬川流域の最大支川であり、溪流が交わりながら、桐生川ダム等を通り、桐生市街地を貫流します。

### (イ) 地形等

渡良瀬川流域の東部には急峻な山が多く、南西部には火山灰台地が緩やかに形成されています。南部はなだらかな起伏を持つ平坦地であり、一部は扇状地を形成しています。北東部の草木ダム周辺には花崗岩体が貫入しています。渡良瀬地域南部は、砂礫の上部にローム層が発達する大間々扇状地、利根川や渡良瀬川の河川堆積により形成されています。

## カ 矢場川・谷田川流域

### (ア) 概況

矢場川・谷田川流域は太田市、館林市、邑楽郡にまたがっており、群馬県の南東部に位置します。多くの水害が発生してきた地域で、堤防の築造や水防を行ってきました。数多く整備された用水路の一部は地域排水の必要性があることから、一級河川となっています。

谷田川は流路延長約 20km の一級河川であり、渡良瀬川に注いでいます。谷田川の河床勾配は非常に小さく平常時の流れは緩やかです。複数の排水機場を有しており、洪水時等渡良瀬川の水位が高く自然流下による合流が難しいときは、谷田川排水機場、谷田川第一排水機場、谷田川第二排水機場、新堀川排水機場によって、利根川及び渡良瀬川に排水します。一方、谷田川の水位が高い場合は、宮田川排水機場、千津井排水機場、蛇沼川排水機場、佐貫排水機場によって支流の水を谷田川に排水します。

### (イ) 地形等

矢場川・谷田川の地形は洪積台地と沖積低地に区分されており、洪積台地は、大泉町から板倉町まで東西に延びる内陸砂丘を基盤としたローム層台地が中心です。西半は平坦な地形が広がっており、東半は沖積低地に囲まれた比高差のある舌状台地を形成しています。洪積台地の地質は礫、砂、粘土の互層であり、関東ローム層が上部を被覆しています。東部の沖積低地は水田として利用される地域で利根川、渡良瀬川の氾濫堆積作用で形成されており、地質は未固結の細礫・砂・粘土からなり、泥炭や黒泥土等の有機層といった軟弱な地盤で形成される特徴を持ちます。

## キ 神流川流域

### (ア) 概況

神流川流域は群馬県の南西部に位置し、藤岡市、多野郡にまたがっています。神流川は長野・埼玉を含む3県の県境である三国山を源とする、流域面積407.0km<sup>2</sup>、幹線流路延長 87.4km、平均河床勾配1/20の河川です。

### (イ) 地形等

神流川流域の地形は、その大部分が奥多野山地と御荷鉾山地で構成され、下流の一部に扇状地が広がっています。そのため、土地利用は、上流の大部分は山林で覆われ、下流の扇状地が畑、水田、市街地として利用されています。地質は、上流では古生代や中生代の砂岩・泥岩互層であり、中流では古生代の黒色片岩・緑色片岩互層が広がっています。

## 2 社会的特性

### (1) 人口分布

群馬県の総人口は、2020(令和2)年10月時点の国勢調査では193万人程で、全国で18番目に人口が多い地域です。県内で人口が多い都市は、高崎市(約37万人)、前橋市(約33万人)、太田市(約22万人)の順となっており、これら上位3市で県の人口の約48%を占めています。一方、多野郡の上野村(約1,100人)、神流町(約1,600人)や甘楽郡の南牧村(約1,600人)では人口が少なく、これらの町村は群馬県の南西部に位置しています。

表 2-2 群馬県内の人口分布

	人 口						世 帯					
	総数	対前回(平27)			男女別			総世帯	対前回(平27)			1世帯当たり人員
増減数		増減率	%	男	女	人口性比	増減数		増減率	%		
県 計	1,939,110	-34,005	-1.7	959,411	979,699	97.9	805,252	31,300	4.0	2.41	-0.14	
市 部 計	1,656,920	-22,078	-1.3	818,445	838,475	97.6	691,587	29,815	4.5	2.40	-0.14	
郡 部 計	282,190	-11,927	-4.1	140,966	141,224	99.8	113,665	1,485	1.3	2.48	-0.14	
前 橋 市	332,149	-4,005	-1.2	162,298	169,851	95.6	141,882	4,982	3.6	2.34	-0.11	
高 崎 市	372,973	2,089	0.6	182,646	190,327	96.0	160,981	10,801	7.2	2.32	-0.15	
桐 生 市	106,445	-8,269	-7.2	51,392	55,053	93.4	44,971	-1,063	-2.3	2.37	-0.12	
伊勢崎市	211,850	3,036	1.5	106,350	105,500	100.8	86,200	6,090	7.6	2.46	-0.15	
太 田 市	223,014	3,207	1.5	114,106	108,908	104.8	92,531	6,264	7.3	2.41	-0.14	
沼 田 市	45,337	-3,339	-6.9	21,942	23,395	93.8	18,853	-325	-1.7	2.40	-0.13	
館 林 市	75,309	-1,358	-1.8	37,769	37,540	100.6	31,643	1,424	4.7	2.38	-0.16	
渋 川 市	74,581	-3,810	-4.9	36,363	38,218	95.1	29,114	302	1.0	2.56	-0.16	
藤 岡 市	63,261	-2,447	-3.7	30,766	32,495	94.7	25,362	793	3.2	2.49	-0.18	
富 岡 市	47,446	-2,300	-4.6	23,403	24,043	97.3	18,514	259	1.4	2.56	-0.16	
安 中 市	54,907	-3,624	-6.2	26,848	28,059	95.7	22,093	-288	-1.3	2.49	-0.13	
みどり市	49,648	-1,258	-2.5	24,562	25,086	97.9	19,443	576	3.1	2.55	-0.14	
北群馬郡	36,008	599	1.7	17,803	18,205	97.8	12,979	803	6.6	2.77	-0.13	
榛 東 村	14,216	-113	-0.8	7,190	7,026	102.3	5,116	229	4.7	2.78	-0.15	
吉 岡 町	21,792	712	3.4	10,613	11,179	94.9	7,863	574	7.9	2.77	-0.12	
多 野 郡	2,773	-411	-12.9	1,366	1,407	97.1	1,379	-102	-6.9	2.01	-0.14	
上 野 村	1,128	-102	-8.3	573	555	103.2	552	-26	-4.5	2.04	-0.08	
神 流 町	1,645	-309	-15.8	793	852	93.1	827	-76	-8.4	1.99	-0.17	
甘 楽 郡	20,678	-2,065	-9.1	10,161	10,517	96.6	8,269	-263	-3.1	2.50	-0.16	
下仁田町	6,576	-988	-13.1	3,224	3,352	96.2	2,808	-232	-7.6	2.34	-0.15	
南 牧 村	1,611	-368	-18.6	762	849	89.8	801	-152	-15.9	2.01	-0.07	
甘 楽 町	12,491	-709	-5.4	6,175	6,316	97.8	4,660	121	2.7	2.68	-0.23	
吾 妻 郡	51,619	-4,772	-8.5	25,596	26,023	98.4	21,613	-579	-2.6	2.39	-0.15	
中之条町	15,386	-1,464	-8.7	7,498	7,888	95.1	6,352	-177	-2.7	2.42	-0.16	
長野原町	5,095	-441	-8.0	2,529	2,566	98.6	2,191	-131	-5.6	2.33	-0.06	
嬭 恋 村	8,850	-930	-9.5	4,522	4,328	104.5	3,532	-132	-3.6	2.51	-0.16	
草 津 町	6,049	-469	-7.2	3,034	3,015	100.6	3,229	-46	-1.4	1.87	-0.12	
高 山 村	3,511	-163	-4.4	1,745	1,766	98.8	1,165	-2	-0.2	3.01	-0.13	
東吾妻町	12,728	-1,305	-9.3	6,268	6,460	97.0	5,144	-91	-1.7	2.47	-0.21	
利 根 郡	31,621	-3,110	-9.0	15,346	16,275	94.3	12,131	-473	-3.8	2.61	-0.15	
片 品 村	3,993	-397	-9.0	1,949	2,044	95.4	1,574	20	1.3	2.54	-0.29	
川 場 村	3,480	-167	-4.6	1,593	1,887	84.4	997	17	1.7	3.49	-0.23	
昭 和 村	6,953	-394	-5.4	3,455	3,498	98.8	2,601	125	5.0	2.67	-0.29	
みなかみ町	17,195	-2,152	-11.1	8,349	8,846	94.4	6,959	-635	-8.4	2.47	-0.08	
佐 波 郡	36,054	-600	-1.6	17,594	18,460	95.3	14,932	595	4.2	2.41	-0.14	
玉 村 町	36,054	-600	-1.6	17,594	18,460	95.3	14,932	595	4.2	2.41	-0.14	
邑 楽 郡	103,437	-1,568	-1.5	53,100	50,337	105.5	42,362	1,504	3.7	2.44	-0.13	
板 倉 町	14,083	-932	-6.2	7,031	7,052	99.7	5,428	63	1.2	2.59	-0.20	
明 和 町	10,882	-162	-1.5	5,465	5,417	100.9	4,089	175	4.5	2.66	-0.16	
千代田町	10,861	-457	-4.0	5,470	5,391	101.5	4,074	93	2.3	2.67	-0.18	
大 泉 町	42,089	887	2.2	22,282	19,807	112.5	19,043	973	5.4	2.21	-0.07	
邑 楽 町	25,522	-904	-3.4	12,852	12,670	101.4	9,728	200	2.1	2.62	-0.15	

(注) 人口性比は、女性100人に対する男性の数

※《令和2年国勢調査》 群馬県の人口と世帯【人口等基本集計結果(確報)】より引用

## (2) 産業

### ア 農業

群馬県は、標高 10～1,400m の間に水資源や耕地が存在し、かつ首都圏に位置することから、多様な農業が行われています。群馬県の農業産出額は都道府県で全国 14 位（令和元年度）であり、特に野菜や畜産の生産が盛んです。農業産出額の上位品目は豚、生乳、キャベツ、肉用牛、米、きゅうり、鶏卵、ほうれんそう、なす、こんにゃくいもの順となっており、群馬県の農業産出額の 8 割を占めます。また、これらの農産物生産量や飼養頭数は全国でも 5 位以内に入り、こんにゃく、キャベツ、えだまめ、繭は全国でも 1 位となっています。

総農家数は 42,296 戸で、そのうち販売農家数は 19,425 戸（令和 2 年）で、5 年前と比較すると減少傾向にあります。新規就農者は 173 人、認定農業者は 4,821 経営体（令和 2 年）で、法人経営体数が 5 年前より増加しています。耕地面積は 66,800ha で田は 25,300ha、畑 41,500ha で（令和 2 年）前年に比べ 800ha 減少しており、中山間地域で深刻化している荒地の面積は 5 年前より 990ha 程増加しています。

### イ 林業

群馬県では、県土面積のうち、3 分の 2（42 万 7 千 ha）を森林が占めており、林野率は 67% と、関東地方において、最も上位の森林面積、林野率を有していることから、「関東一の森林県」と言われています。里山が都市から農山村まで続き、県北部にはブナ林、尾瀬の湿地には天然林が取り囲むなど、平地から高山まで多種・多様な森林が分布しています。

民有林の 48% は人工林が占め、樹種別では、スギが最も多い 27% を占めています。また、民有人口林では 51 年生以上の森林が 65% を占めていることから、森林資源の有効活用と高齢化した人工林の更新を課題としています。

### ウ 工業

群馬県は、自動車を中心としたものづくり産業の拠点であると共に、各産業の川下産業として基盤技術を担う中小製造業の集積を強みとしています。群馬県の金型工業は戦前の飛行機づくりから自動車、電機機器産業と共に発展してきた歴史があり、太田市を中心に大小の金型メーカーが集積しています。特に、自動車用プレス金型は全国有数の産地です。

令和 2 年の製造業を営む事業所のうち、従業員 4 人以上の事業所数は 4,480 事業所、従業者数は 21 万 730 人、製造品出荷額が 8 兆 9,819 億円となっています。事業所数及び従業者数は過去 20 年、減少傾向にあり、前年と比べて 160 事業所、2,421 人が減少しており、対して製造品出荷額は過去 20 年、増加傾向にあるものの、前年より 1,541 億円減少しています。

産業出荷額は、輸送機器 (37.3%)、食料品 (9.5%)、化学 (8.6%)、プラスチック (6.1%)、金属製品 (5.2%) の順で多く、前年より増加した産業は、化学や電気機器、生産用機器等の 10 産業です。市町村別では、太田市 (33.3%)、伊勢崎市 (13.1%)、高崎市 (10.6%)、大泉町 (7.0%)、前橋市 (5.7%) の順となっています。

### (3) 河川等の利用状況

群馬県の河川には魚釣りや水遊び等多くの人が自由に利用できる場所が数多くあります。憩いの場やスポーツレクリエーションの場として、公園や運動場等が設置され、広く利用されています。また、県内各地の河川には漁業協同組合が管理する漁場があり、サクラマス、ヤマメ、イワナ、アユ等の釣りを行うことができます。

また、県内の多くの地域では、河川水を利用した稲作なども営まれています。